



THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS

REGION 9 ワイズメンズクラブ国際協会西日本区
JAPAN WEST



YMCAサービス・ユース事業通信 第3号

2018年 2月5日発行

2017-2018年度 西日本区YMCAサービス・ユース事業主任

山川 新一（京都めいぶるクラブ）

事業主題 「YMCAと共に、ユースリーダーと共に

～今、ワイズにできること～」

余寒お見舞い申し上げます。

極端に寒い日や、なんか妙に暖かい日があったり、インフルエンザも流行っていますが、皆さま如何お過ごしでしょうか。皆さまには日頃、YMCAサービス・ユース事業へのご理解ご協力を頂き誠に有難うございます。残る下半期、Yサ・ユース事業の発展にどうぞご協力を宜しくお願い申し上げます。

京都部 京都YMCAサバエ教育キャンプ場 緊急復旧ワーク

11月23日、今年10月後半のこの時期に日本を襲った台風21号。各地で被害を起したこの台風の影響で京都YMCAサバエ教育キャンプ場の施設にも倒木や建物の損壊がありました。この被害に対して京都YMCA



では、緊急の復旧支援ワークを広く呼びかけ、京都部のワイズメンを中心にリーダー、リーダーOB、OGが遠くは関東からも駆けつけて頂きました。キャンプ場へ向かう途中の浜でも10mを遥かに超える松の木が何本も根元から倒れているのが見えました。朝9時にキャンプ場に着くと、もう多くのワイズメンが広場に集まっていました。見ると食堂の前に雨よけで廻っている庇が東側の一部を残し全く無くなっているではありませんか。南側は高さ10mはあろうかという松の太木が根元から折れている。危険な状態です。近くには高圧電線の鉄塔も建っておりそのフェンスに向かって倒れているではありませんか。ワイズは手分けをして復旧作業にあたりました。倒木は細かく裁断して所定の場所へ運び、壊れた庇は危険の無い様に仕舞いをして各人がテキパキと作業を進めました。と、物置に使っていた建物に倒木が何かで屋根に穴が開いているとの事。直ぐにブルーシートを被せて応急手当。シーズンオフの台風で怪我人もなく施設の被害のみで済んだのは不幸中の幸いでした。その後、施設周辺の折れ枝や流木を片付けてこの日のワークは終了しました。急な呼びかけにも関わらず集まって頂いた皆さんには、お疲れ様でした。



びわこ部 YYYフォーラム

11月26日 びわこ部のYYYフォーラムは、彦根市のビバシティ・ラピュタボウルでのワイズメンとリーダーの混成ボウリング大会で幕を開けました。大勢の参加でボウリング場は貸切に。それぞれのレーンでは、一投ごとに大きな歓声や悲鳴にも似た声が上がりと大盛り上がりです。私と同じレーンになったリーダーも、ボウリングは毎年YYYフォーラムでのこの機会だけだと言いながら楽しそうに笑っている姿は頼もしくもあり、ちょっぴり不安でもありそれでも、この事業に毎年忙しい中時間を割いて参加してくれている事に感謝しありません。この若者達がYMCAとの関わり、ワイズとの関わり、何よりYMCAに通う子供たちとの関



わりの中で何を感じ何を見つけるのか。そしてこの若者達が社会に出て結婚、親となってその子をまたYMCAに通わせたいと思うようなそんなYMCAであるだろうか。そんなワイズメンズクラブであるだろうか。ワイズメンズクラブの活動は、そんな人を育てる事業ができていのでしょうか。ワイズメンズクラブの人達は格好いいなあ。自分もいつかあんな大人になりたいなあ。と思わせられるようなそんなワイズメンでありたいと。その瞳の奥に溢れんばかりの希望と胸いっぱいの夢を応援できるワイズメンズクラブであるなら、この先もユースとの信頼関係が築けると確信します。それは、YYYフォーラムの最重要課題でもあるのです。ボウリング終了後、部屋を会議室に移しYMCA、ユースリーダー、ワイズメンそして西日本区Yサ・ユース事業主任として、それぞれの立場で話しを交わしました。帰りの列車の中でもリーダー達と今日のボウリングの事、日頃の活動の事、将来の夢の事。色々話してくれました。有難う。素敵な未来で有ります様に。

九州部 熊本YMCA インターナショナルチャリティーラン

12月10日 熊本YMCAのチャリティーランが合志市農業公園で開催されました。「雨」の天気予報を覆し朝の会場はまだ雲の切れ間から陽が射しています。広い公園には多くの屋台も建ち並び準備が進んでいます。開会式、合志市荒木市長の来賓挨拶に続き西日本区Yサ・ユース事業主任として来賓挨拶をさせて頂きました。



た。貴重な経験を有難うございました。くまモンを先頭にゆるキャラ達の応援の中、先ずは、“くまモン体操”で体をほぐし、各競技がスタートしました。小学生駅伝、1/100 マラソン、グループラン、地元の肥後銀行の駅伝部の皆さんも大会に花を添えてくださり、競技の合間にはマラソンのフォームやトレーニング方法のクリニックも指導頂きました。おかげで大変盛り上がりしました。何処のチャリティーでも一番の盛り上がりはやはり、クラブを代表して櫓を繋ぐグループランです。ユースサイドからの声援に笑顔で走り抜けるランナーや苦しうなランナーが勇気をもらい頑張る姿は見えても気持ちのいいものです。熊本YMCAのインターナショナルチャリティーランは昨年からは本格的に始まったもので今回は、第2回目です。しかし、熊本YMCAの職員の方々、ユースリーダー達、YMCAプログラム会員の皆様、地元の皆様、在熊のワイズメンと参加者も多く、屋台も各クラブの他にプロの屋台も出ており、地域との繋がりの深さを感じました。午後になり、残すは表彰式と閉会式となった頃、天より冷たい雨が落ちてきました。なんとか、全てのプログラムが終わった時には、激し



い雨となっていました。

2017-2018 Yサ・ユース拡大事業委員会

1月20日 神戸YMCAに於いて今期のYサ・ユース拡大事業委員会を開催しました。堤弘雄直前主任と人見晃次次期主任、各部からは、外海清圭びわこ部主査、合田太一京都部主査、宮本桂子阪和部主査、三宅敬瀬戸山陰部主査、理事キャビネットからは、大野勉理事と桑野友子会計の8名の参加を頂き、今期のYサ・ユース事業の上半期の報告と下半期の計画の再確認をしました。残る半期での事業主題及び計画達成にむけて、各事業の報告書の提出とYサ・ユース献金の目標達成のお願い、今年の夏に行われる国際ユースコンボケーション（IYC in Yeosu）の参加者推薦のお願いを合わせていたしました。今期上半期にYYYフォーラムの終了している部は、中西部とびわこ部のみでフォーラムを開かれない中部を除いても残り6部のフォーラムの予定があります。各部それぞれにYYYフォーラムの充実した内容を現在詰めていただいております。

インターナショナル・チャリティーランは、今期は、開催されない京都YMCAを除くと滋賀YMCAのチャリティーランが下半期に予定されています。IYC参加者推薦は、1月20日現在で京都部より2名、九州部より2名の計4名の推薦があります。昨年の「次期会長・主査研修会」以来の拡大事業委員会でしたが、大いに



意義のある会になったと思います。委員会後の親睦会では、YMCA近くのピッツァリアでの美味しいピザとワインで、まだまだ話しも盛り上がりしました。ご参加頂いた皆様には寒中、遠路本当に有難うございました。ご協力に感謝いたします。

す。

日本YMCA同盟 インターナショナルチャリティーラン担当者会

1月24日 日本YMCA同盟のインターナショナルチャリティーラン担当者会が、東京の在日韓国YMCAアジア青少年センターに於いて行われました。全国でチャリティーランを運営されている21都市YMCAのチャリティーラン担当者と大会委員長の有森裕子氏、国際賛助会（FCSC）会長の金子みどり氏を迎え同盟からは神崎同盟総主事をはじめ、チャリティーランの企画及びブランディングの担当の職員の方々、ワイズからは、東日本区の方は欠席されており私が西日本区からYサ・ユース事業主任として参加して参りました。検討事項は、新ロゴ取扱いと関連広告物について、スポンサーロゴの使用について、三菱賞の取扱い、エアアーチの安全性、強風時の対処、そして、参加人数減少の対策と盛り沢山でしたがそれぞれに、切実な問題で多くの意見が交わされました。この、全国的なマラソンブームのなかで伝統あるYMCAインターナショナルチャリティーランの生き残り差別化は、今後のチャリティーランそのもののあり方を左右する課題でもあります。

2018年度（4月～3月）までのYMCAインターナショナルチャリティーランすべての実施予定を見るには、日本YMCA同盟のホームページから＜障害児プログラム支援＜チャリティーイベント＞2018年度開催スケジュールで確認してください。

＜Yサ・ユース献金＞

今期、目標献金額は2,000円/人となっています。人数の算定は期首（7月1日）の半年報記載人数です。この献金は、国際アレキサンダー奨学金や日本YMCA同盟実施の青少年育成プログラム、ユースコンペケーションに代表されるユースに対する活動支援、YY（Y）フォーラム支援金、各部、各クラブで行われるYMCAサービスプログラムの事業資金援助にあてられます。送金締切は、3月15日です。是非、皆さんの温かいご支援ご協力を宜しくお願いします。

＜Yサ・ユース事業報告書＞

各クラブYサ・ユース事業委員長の皆さん、事業報告書の準備は如何でしょうか。折角の素晴らしい事業を是非、ご報告頂きます様お願いします。書式は、**西日本区のホームページから＜資料庫＞＜諸届出用紙＞No.102号、103号**をお使い頂くと便利です。別紙に事業の写真と一言コメントを添えてください。**各部事業主査、部長、西日本区理事、事業主任宛**てに郵送でも電子メールでもどちらでも結構です。お待ちしております。
